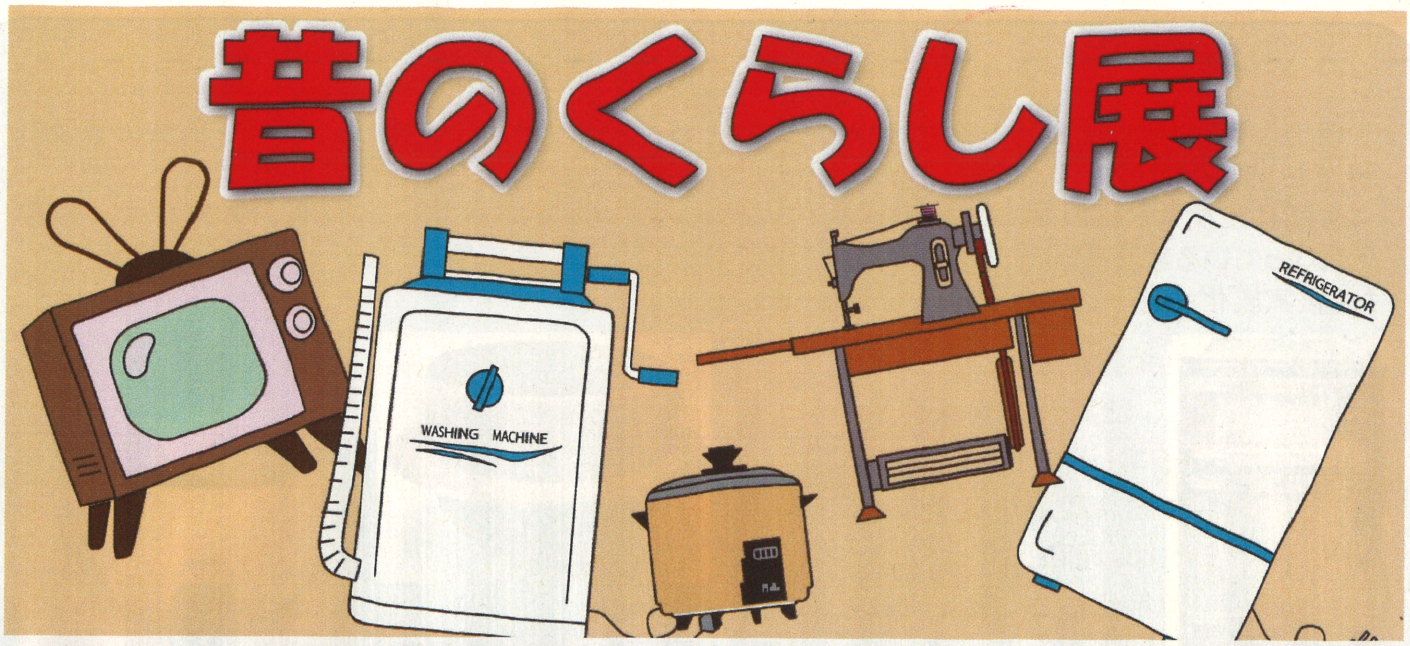
昔のくらし展



スマートフォン、テレビ、掃除機、炊飯器、冷蔵庫などといった道具は、日々進化し、私たちの生活をより良いものとしてくれています。

それらの道具が誕生した時のものにふれた時、私たちはその道具の扱いに戸惑いを感じ、時として不便さを感じることもあるかもしれません。しかし、当時の人たちは、より良い生活のために、知恵と工夫を活かして道具をつくりました。その結果、道具も時代と共に姿や形を変え、使いやすく、より便利な道具へと変化してきました。

ここでは、昭和 40 年(1965)頃の高度経済成長期に使われていた道具を中心に紹介していきます。昔の人の知恵と工夫を見ていきましょう。

着 る

江戸時代までは着物(和服)でしたが、明治時代に洋服を着る人も現れます。関宿周辺の人々の服が洋服になるのは、昭和 20～30 年頃からです。はきものも下駄やぞうりから靴に変わっていきます。また、洗濯もたらいと洗濯板による手洗いから電気洗濯機に変わります。

下駄

晴れた日用。1本の木から作られているので、歯がすり減ると庭用にするなど、大事に使いました。昭和 30 年代頃までは洋服に下駄の人も珍しくありませんでした。

着物

「円」や「井桁」のある模様がある織物です。普段着として使用され、田植えなどでも着用していました。寒いときには、寝巻である浴衣の上に着ました。

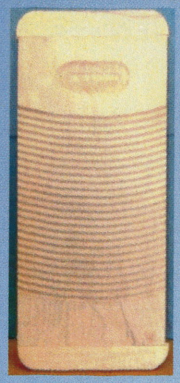
平たくて細長い帯は着物の上から腰に巻いて結びます。

ふのり

布海苔と書き、海藻でできた洗濯海苔です。水で煮溶かして使います。着物の洗い張りやワイシャツなどの洋服ののりづけにも使いました

洗濯板

明治時代にアメリカから入ってきた洗濯をする道具です。ギザギザの面に布をこすりつけて洗います。昭和 30 年代に洗濯機が登場するまで使われました。



食べる

明治中期には現在のような洋食が誕生し、大正から昭和といった時代に入るとガス・電気の普及で西洋キッチンが広がり、ハンバーグやカレーライスなどが家庭料理として定着しました。

台所は土間から板の間になり、料理をするための燃料が、薪からガスに変わり、今では、オール電化になっている家庭もあります。調理道具も竹や木の製品から金属やプラスチックの製品に変わりました。核家族化が進み、小さい道具が多くなりました。

木製冷蔵庫

上の段に氷を入れ、下の段に冷やす食材を入れました。木製冷蔵庫が庶民に普及したのは、昭和30年代でした。昭和50年代には、家庭での電気冷蔵庫の普及率が 99%になりました。

手桶

井戸から水を汲む時に使用していました。昭和30年代に水道が普及すると、井戸が使われなくなったため、手桶も使われなくなりました。

羽釜

昭和 30 年代までは、土間にかまどがあり、ご飯を炊くには羽釜を使用していました。

電気炊飯器

昭和 30 年代以降、ご飯を炊く道具は、ガス炊飯器になり、その後、電気炊飯器になりました。

マッチ

明治時代半ばから、一般家庭にマッチが普及しました。ガスレンジの普及により、使用される機会が少なくなりました。

住まう

昭和の中頃、核家族の増え始めたころは、家族だんらんの場、食事の場、寝る場所など用途を兼ねた部屋が多く、家自体も小さくなりました。その後、住まいは用途を兼ねた部屋から、食堂、居間、寝室、子ども部屋など、個室に分かれたつくりが主流になっています。

カラーテレビ

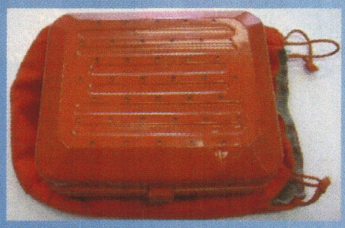
昭和 30 年代に白黒テレビ、昭和 50 年代にカラーテレビが普及し始めました。

足踏みミシン

洋服を着るようになった明治時代以降、使われるようになりました。明治時代に国産ミシンが製作され、大正時代には足踏み式が登場しました。昭和50年代ごろから、電気ミシンが主流となっていきました。

柱時計

ゼンマイ式の振り子時計で、1日に1回ネジを巻いて使いました。



あんか

炭や石炭その他の粉を固めた燃料である豆炭を熱して中に入れると、一晩中温まることができます。やけどをしないように、布袋などに入れて使用しました。

遊　ぶ

メンコやベーゴマなどのほか鬼ごっこやかくれんぼなど、近所の子どもたちが空地に集まって遊びました。昭和 40 年代から乾電池式のおもちゃやゲームなどが増え、遊ぶ場所や遊び方も変わっていきました。

リリアン

レーヨンの糸を編んできれいな紐を作る女の子のおもちゃです。昭和 30 年～50 年代にかけて人気がありました。

ビー玉

諸説ありますが、ビードロ（ガラスを示すポルトガル語）玉が語源といわれています。

おはじき

最初は貝殻や小石、木の実でしたが、明治時代後期からガラス製になりました。

お手玉

小さな布袋に小豆などが入っています。歌を歌いながら数個のお手玉を投げ上げて、受けたり拾ったりする遊びで、地域ごとに歌の違いがあります。

働　く

関宿城博物館の周辺は川が近く、水害も多かった場所なので、水害に備えるため収穫時期が異なる米と小麦の二毛作が行われていました。また、沼も多かったので、農業の傍ら漁業を営む家もありました。昭和40年代からは会社勤めの家も多くなり、働き方や生活スタイルが大きく変わっていきました。

唐箕（とうみ）

収穫したお米は、籾摺りをして籾殻を取り外します。これを唐箕の上から入れ、取っ手を廻して風を起こすと、軽い籾殻と重い実、中間のくず米に分けることができます。

筌（うけ）

川や沼などで魚を捕る道具です。中に餌を仕掛けておくと、魚が入って出られなくなる仕組みです。

ボッチ笠

頂点にボッチがある笠をいいます。素材はい草で、雨や日差しの強いときにかぶりました。

背負い籠

背中に背負って、たくさんのものを運べる便利な道具です。道具や収穫物入れとして多用されます。